



晩秋の姫路城（写真提供：姫路市）



八尾 眞太郎

昭和二十五年に制定された「建築基準法」が、今年初めて抜本的に改正された。この改正は、規制緩和、行政改革、国際調和等々日本社会の体質改善の流れに沿ったものであるが、阪神・淡路大震災が改正の動きに拍車をかけたことも事実である。改正内容の要点は、まず建設業界の高コスト構造を是正することである。次に建築物の災害安全性を法的に最低限保証するが、建築主の責任においてさらに安全な選択肢が与えられたこと等である。

先の阪神・淡路大震災においては、多くの文化財が被災したことも問題となった。一般の既存不適格建築物は耐震診断基準によって補強する手段が概ね確立されているが、文化財の保存となるとかなり異なった側面を持っている。

世界文化遺産に指定された国宝姫路城は、昭和の大修理を終えて既に久しい。当時文化財を補修する際に、その耐震性を判定した規範は何であったか。それは数百年以上の時間に耐えてきたと言う実績であった。我が国であればその間に大きな地震に一度ならず耐えているはずである。いかにも文化財に相応しい知恵であると言える。

しかし、先の阪神・淡路大震災の翌年には、文化庁より各都道府県教育長宛に「文化財建造物等の地震時における安全性確保に関する指針」が通知されている。内容の主旨は「可能な限り被害を小さくするように個々の文化財について工夫すべし」であった。ユネスコの文化財保存に関する基本理念は「AUTHENTICITY」をキーワードとして「材料」「形」「技術」「環境」の保存に努めることであるが、具体的な補強手段となると最新の工学を如何に応用するかと言う点で担当の間で発想にかなりの幅が見られるようになっていく。

姫路城昭和の大修理においては天守閣を支える石垣の本格的な改修工事は見送られた。木造の大構造物である天守閣と石垣との間に取交わされる微妙なバランスの妙には未だに謎が多い。私はその謎解きに少し挑戦しようと思っている。

文化庁とユネスコの姿勢からも解るように、文化財は単に「古い物」ではないだけに取扱いがむづかしい。文化財を保存することの意義は、世界各国の国民が国旗と国歌を愛することのそれと同様であると私は考えている。

文化財は、かつての輝かしい栄光の跡を留めるばかりではない。幾多の戦場となり、血生臭い歴史を繰り返した舞台となったことに対して、各々の苦難を乗り越えて現在に至っている歴史の重厚さと畏敬の念を人々が共有することができる。その共有によって人々はその社会に帰属することの自覚と自信を持つことができる。

文化財を粗略に扱えば、人心が荒み社会が荒廃の道を辿ることとなる。文化財保存問題がこれらの問題の全てではない。戦後五十年余り日本国民が辿ってきたイデオロギーと心の変遷を今、国民一人ひとりが順を追って省みることがどうして必要であるかと私は考えている。今、日本社会が陥っている社会心理的構造の問題点を根底から解明しておかないと、日本社会の体質改善に関する動きにも明るい見通しを持つことができない。私達は、今、未来に向かってどのような遺産を残しつつあるのだろうか。

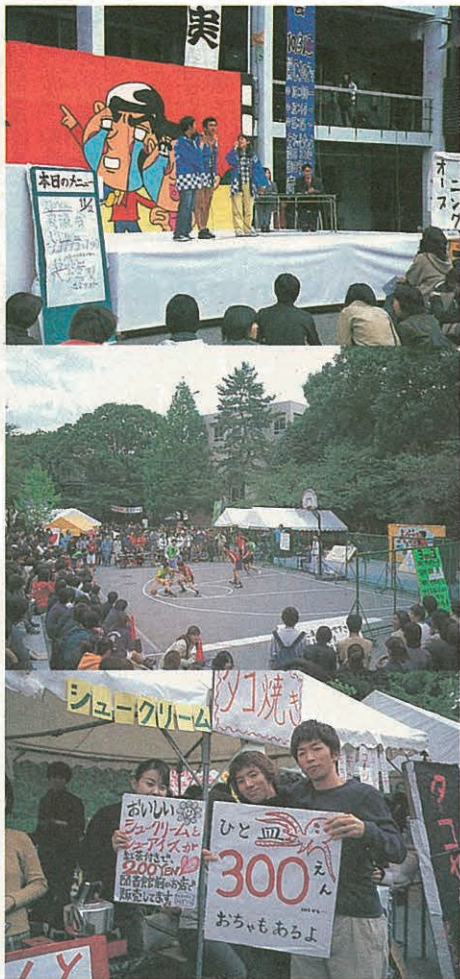
目的と自信を失った若者達に対しては、そのように憂慮される。

（工学部教授）

HEADLINE

- 2 面 六甲山荘オープン
- 4・5 面 特集 「頻発する大地震」
- 6 面 インターネット体験記
- 7 面 法学部と漢陽大国際シンポ
- 8 面 学園祭・大島賞贈呈式

先日、時間を見つけて箱根へ足を延ばした。ホテルの前に広がる湖とそれを取り囲む山々は、国立公園に指定されており、人の手は全く（？）といってよいほど加わっていない。長い夏を終え急にやってきた冷え込み、着いた日にはまだあたたか木々の葉が一日ごとに色付いていく様子に、自然の偉大さを眼のあたりにした。晩冬から半年間の闘病・療養生活で実感した人間の持つ自然治癒力を考え合わせる時、自然にいだかれて生きることの重要性を再認識させるをえなかった。箱根の彫刻の森を訪れた。山々に囲まれて点在する彫刻の中に、「シンフォニー彫刻」というステンドグラスで作られた塔があった。外から見る限りでは、灰色の建物にすぎないが、中に入り階段を昇るにつれ、太陽の光とその陰り、そこにいる人間の声、無心に階段を昇る足音、早くなる息遣いが一つのシンフォニーとなり、高みへと誘われる。塔の入り口には、「すべてのことは見るよりも探し出すこと。／生きる喜びを。」という詩人の言葉があった。（石原敏子）



'99学園祭



後夜祭(第1部)



千夜祭(第2部)

今年の学園祭が、十月二十九日から十一月三日にかけて開催された。十月三十一日までが第2部千夜祭(テーマ「らしさ」)、十月三十一日から第1部統学園祭(テーマ「Ac-tion Now」)の二部構成で、この六日間、千里山キャンパスはお祭りのムード一色に包まれた。

拳法部など金メダル

「大島賞」贈呈式を挙る

関西大学体育会員のうち、気の高揚に資する事を目的から、顕著な成績を収めた団体及び個人に対して、本学OBでスポーツ界において世界的に活躍された故大島謙吉氏の偉業を偲び、メダルを贈ることにより、本学体育OB会より本学に学体育会の振興ならびに士多大な金額を大学に寄託さ



金メダルを授与される拳法部

れ、大学ではその意向を受けて関西大学体育会表彰和五十七年(実施)と時をあわせて、金、銀、銅の各メダルを授与し表彰するものである。

今年度、全日本大会で優勝した団体および個人に、また西日本大会、関西大会、近畿大会のいずれかに優勝した団体および個人には銀メダルが、全日本大会で上位入賞した団体および個人には銅メダルが授与された。

大島賞受賞者

金メダル	拳法部	大島賞(文四)
銀メダル	弓道部	大島賞(文四)
銅メダル	軟式野球部	大島賞(文四)
銅メダル	なぎなた部	大島賞(文四)
銅メダル	陸上競技部	大島賞(文四)
銅メダル	アーチェリー部	大島賞(文四)
銅メダル	射撃部	大島賞(文四)
銅メダル	自動車部	大島賞(文四)
銅メダル	相撲部	大島賞(文四)
銅メダル	柔道部	大島賞(文四)
銅メダル	剣道部	大島賞(文四)
銅メダル	空手道部	大島賞(文四)
銅メダル	少林寺拳法部	大島賞(文四)
銅メダル	少林寺拳法部	大島賞(文四)
銅メダル	少林寺拳法部	大島賞(文四)

軟式野球部連覇

飛躍

軟式野球部は八月二十八日から十月十六日まで実施された関西学生軟式野球秋季リーグ戦で七勝二敗一分の成績を挙げ、プレーオフの結果、関西に勝ち、二シーズン連続の優勝を決めた。

また第2部準硬式野球部も関西II部六大学秋季リーグ戦において六戦全勝し、こちらも春に続いて連続優勝を決めた。

重量挙げ部は、九月二十八日大阪府立体育館で行われた第十五回関西学生ウエイトリフティング選手権大会(62kg級)で石川洋平(商四)が見事優勝した。

相撲部は、十月三日東京

5種目で熱戦

第30回スポーツ週間

今回で第三十回を迎えるスポーツ週間は、十一月一日(金)から十一月二十六日(金)まで行われた。ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球の五種目が行われ、優勝者は次のとおり。

▼ソフトボール大会
オス・メス・ドス

▼バレーボール大会
KUクラブ2000

▼バスケットボール大会
スパーVANNAN

▼硬式テニス大会
土感会バートIIAPPY

▼バドミントン大会
見崎裕也(工一)

学生諸団体の行事予定

【第1部】 ▷バドミントン部 関西学生バドミントン新人戦大会 11月29日(月)～12月1日(水) (舞州アリーナ) ▷拳法部 第44回全日本学生拳法選手権大会 12月12日(日)9:00～ (大阪府立体育館) ▷卓球部 第31回会長杯争奪卓球大会 12月17日(金)～19日(日) 9:00～ (東大阪アリーナ)	▷混声合唱団「葦」 第25回定期演奏会 12月1日(水)18:00～ (吹田メイスター) ▷落語大学 第34期生引退公演 12月6日(月)18:00～ (吹田メイスター) ▷経営学研究部 第103回日本学生経営学会秋季大会 12月11日(土)～12日(日) (福岡大学)	▷速記部 第78回全日本大学速記競技大会 12月12日(日)9:00～ (代々木オリンピックセンター) ▷中国研究部 西日本学生中国語連盟暗唱弁論大会 12月12日(日)13:00～ (京都外国語大学)	▷混声合唱団「ひびき」 第33回定期演奏会 12月13日(月)18:30～ (吹田メイスター) ▷交響楽団 第51回定期演奏会 12月15日(水)18:30～ (吹田メイスター) 【第2部】 ▷演劇研究会「学窓座」 冬公演 12月17日(金)～19日(日) (有楽館)
--	---	--	---

KUカレンダー

11月	◇法学研公開講座「毛沢東と鄧小平」 (10:30 第1学舎B201R)
29日(月)	
12月	◇在学生下宿紹介一時休止 (3月16日まで)
1日(水)	
2日(木)	◇社・学術講演会「新しいメディア表現者の登場」 (13:00 第3学舎201R) ◇女子学生就職啓発行事 (12:10 新関西大学会館) ◇大学院祭 (4日まで)
4日(土)	◇院・商学研究科専門職コース開設記念シンポジウム (15:00 100周年記念会館ホール)
6日(月)	◇図書館冬季展「この国の字書と辞書」 (図書館ホール、1月15日まで) ◇学年末(秋学期)試験時間割発表
8日(水)	◇経政研公開講座「人間関係価値観とその変容」 (13:00 図書館ホール)
9日(木)	◇文・就職セミナー「海外での就職の戦略を語る」 (16:00 第1学舎A301R)
14日(火)	◇就職セミナー「証券業界の現状と将来について」 (12:10 高槻キャンパスTB301R、15:00 新関西大学会館)
16日(木)	◇リードセンター総合ガイダンス (12:20 新関西大学会館、17日まで)
17日(金)	◇文・特別講演会「21世紀と大学」 (14:40 第1学舎B201R)
18日(土)	◇文部省学術フロンティア: 社会学研究科特別講演・シンポジウム「学校教育における包括的ストレス・マネージメントに関する臨床心理学的実践研究」 (13:00 100周年記念会館ホール)
21日(火)	◇冬季休業 (1月7日まで)

次号は1月8日発行の予定です



編集後記

八尾眞太郎(やお・しんたろう)教授 阪神・淡路大震災後は、断層と構造物被害の関係を研究テーマの一つに加えた。また、建築基準法の改正に伴い、新しい建築技術の認証制度にもたずさわっている。



今月の表紙

入試といえは冬の定番行事だったが、最近の大学入試多様化の流れで、秋に行われる入試もある。私の所属する法学部でも、先日、推薦入学の面接を実施した。多様性という目論見に反して、どの受験生も事前に準備した退屈な答を繰り返す。そこで、変化球を投げつけてみる。二個のメロンを三人で平和的に分けるとはどうすればいいかな?。こんなことで法学や政治学の素養を見抜けるはずもないが、彼らの目がキラリと輝く。「四月に教養で会えるかもしれないから、それまで考えておいてね。」「ハイ」と、元気な高校生の顔に戻った彼らと約束する。冬にもこんな面接ができればと思うけど。

(園田 寿)